

日米欧原子力国際学生交流事業派遣学生レポート

University of Maryland 滞在記

大阪大学大学院工学研究科
環境・エネルギー工学専攻
北田研究室 博士前期課程1年

中野 勇輝

私は2017年10月から12月までの計3ヶ月間、アメリカのメリーランド大学 (University of Maryland ;UMD) に日米欧原子力国際学生交流事業のサポートの下、派遣していただきました。滞在中は主に、Dr. Mohammad Modarres のご指導の下、マルチユニットRRAに関する研究を行いました。

福島事故を踏まえ、従来の単一ユニットを対象としたPRAではなくマルチユニットからなるサイト全体に対するマルチユニットPRA実施の重要性が高まっています。私はマルチユニットPRA特有であるユニット間相互影響を考慮するための手法開発を目的に研究を行いました。

滞在中最も苦労したことは、やはり英語での議論でした。滞在初期の議論では、聞かれた質問に対して上手く英語で説明することができず、非常に苦労しました。そのような自分に対して、Dr. Modarres は「理由を明確に持つように」ということを何度もアドバイスしていただきました。当然日本語での理由は持っていたのですが、それをしっかりと英語で説明できるように、準備には普段の2倍以上の時間をかけることにより、滞在初期よりも内容の濃い議論をすることができました。

本事業は、日本原子力学会と米国原子力学会シカゴ支部（アルゴンヌ国立研究所）の間で1979年に開始されました。その後、米欧全域へと派遣先が拡張され、現在に至っています。交換留学生の公募は毎年行われていますので、詳しくは、[http : //www.aesj.or.jp/gakuseikouryu/index.html](http://www.aesj.or.jp/gakuseikouryu/index.html) をご覧ください。

研究以外でも非常に有意義な時間を過ごすことができました。私は週に1度、UMDの中で実施される、日本語に興味がある学生が集う会に参加しました。その会は基本的に、自由に様々な話をするのですが、私は日本語を教え、また英語を教えてもらうといったことを通して、私の拙い英語力の向上にも努めました。その中で日本の文化、特にアニメの話になることが多かったのですが、日本に住んでいる私でも知らないことが話に出てきて、驚かされると同時に、それが非常に面白く、いい息抜きとなりました。また週末は、本場アメリカンフットボールの試合観戦に行ったり、ワシントンD.C.にあるスミソニアン博物館に行ったりと、充実した休日を過ごすことができました。

派遣前の私の英語力は、十分なものだとは言えなかったと思います。しかし今回、私にこのような機会を与えてくださり、いろいろな面で自分を成長させることができ、将来原子力の技術者として仕事をしていこうと考えている自分にとって本当に身が引き締められました。今回このような挑戦をさせていただき、本当に良かったと思っています。

(2018年1月12日記)